

## 平成 22 年度第 1 回尾張北部医療圏地域医療連携検討ワーキンググループ 議事概要

日時:平成 22 年 6 月 29 日(火)

14:00~15:30

場所:春日井保健所 講堂

## 議 題

## 1 尾張北部医療圏における救急医療体制等の現状及び課題について

## ● 事務局から資料 1,2,3 により現状を説明

- 春日井市民病院への搬送人数が減少しているが、小牧市民病院への搬送人数は増えている。
- 小牧市民病院は、医療圏内のあらゆる地域から搬送されているほか、尾張中部医療圏からの搬送がかなり多い。地元の小牧市消防署からの搬送は約 6 割。  
春日井市民病院、江南厚生病院と比較した場合、重症者だけ見た場合の割合は高いが、その一方で、軽症者の割合が比較的高い。
- 春日井市民病院は、搬送人員が一番多い。地元である春日井市消防署からの搬送が約 9 割で、この点が小牧市民病院とは明らかに異なる。また、中等症以上の割合が高い。
- 江南厚生病院は、地元の江南市消防署が 7 割くらいを占めるほか、丹羽郡消防署、岩倉市消防署からの搬送が多い。傷病程度としては軽症者の割合が高く、反面、中等症以上の割合は低い。
- 名古屋徳洲会総合病院は、軽症が約 5 割。名古屋市消防署からの搬送も 3 割程度ある。
- さくら病院は軽症が約 3 割で、中等症以上の方の割合が高い。特に重症者の割合が他の病院に比べて高い。
- 犬山中央病院は、軽症、中等症以上とも約 5 割だが、重症者の割合が高い。
- 東海記念病院は、軽症が 4 割で、中等症以上の割合が 6 割となっている。
- 小牧第一病院は、軽症が約 5 割である。
- 岩倉病院は、軽症が約 6 割である。
- 一次救急については、春日井市のみが平日夜間、土曜日午後も実施している。
- 一番遅くまで診療しているのも春日井市で午後 9 時まで実施している。
- 春日井市と小牧市は産婦人科についても休日対応がなされている。
- 休日急病診療所の利用者数としては春日井市のみが大幅に増加している。
- 分娩実施医療機関は、平成 11 年からの 10 年間で病院数は 6 から 5 に、診療所数は 15 から 10 に減少したほか、診療所の分娩取扱い件数は平成 14 年から 20 年の間に 30%減少した。
- 産婦人科医師数はこの 10 年ではほとんど増えていない。産婦人科、小児科の人口 10 万人対医師数も国、県平均より低い。

## ◎意見等

## (救急全般)

- 3 次救急である小牧市民病院の救急患者に占める軽症者の割合が高く、医師の疲弊の原因となっている。
- 小牧市消防署としては小牧第一病院が当直体制を組んでいない日は同院への搬送が難しく、結果として軽症であっても小牧市民病院へ搬送せざるを得ない。
- 小牧市消防署としては、小牧市民病院への集中を防ぐために周辺 2 次救急医療機関への分散搬送をせざるを得ない。
- 小牧市医師会員には有床診療所が殆どなく診療所では救急対応ができない。休日急病診療所も平日夜間の対応までではできていない。
- 軽症者による救急車の利用といった救急医療に対する市民の意識が問題。
- 救急に携わる医師の待遇(給与を含む)が悪いことが問題。
- 救急に携わる医師が疲弊しているのは、医師数が不足していることに起因しており、国として

医師数を増やす方向にならないと解決できない。

- 医師数の不足に加えて医師が救急医療を避ける傾向があることが問題。
- 重症化した高齢入院患者が、福祉施設、在宅、療養病床のいずれにも行けない場合が増えており問題である。
- 救急の受け入れを今後も続けるには出口の問題まで含めて自己完結型でやらざるを得ない。

(小児救急)

○春日井市では、春日井市民病院にかかる小児患者数が多く、病院の医師の疲弊の原因となっている。しかも、患者数が多すぎて江南厚生病院のような方式もとれないでいる。

(周産期医療)

- 大学から医師が派遣されず、病院が自前で医師を育てていかないとどうしようもない。
- 分娩時に入院が必要となっても受け入れ先がない。
- 春日井市においては、コロニーの受け入れ制限を始めとして、NICU の受け入れ先が減ってきていること、母体搬送できる医療機関がないことが問題。

## 2 今年度の議論の進め方について

- 春日井保健所長より以下のとおり提案がなされ了承された。また、部会については資料4により事務局が説明した。

構成員から出た意見等を整理して優先順位を付けるとともに、部会を設置して議論したいとの提案がなされ了承された。また、事務局からは、部会は救急と周産期医療を議論するものを1つ設置すること、及び、構成員の了解の下に課題の優先順位付けを行い、その後、部会員を決定したいとの補足説明があった。

◎意見等なし

## 3 作業部会の設置について

- 上記2を参照。

## 4 実態調査について

- 春日井保健所長より以下のとおり提案がなされ了承された。(資料5,6)
- 保健所職員が、救急医療、周産期医療を行う医療機関等の医師、看護師等から聞き取り調査を行うことを提案し、了承された。

◎意見等なし

## 5 今後のスケジュールについて

- 事務局から資料7により説明
- 今後課題の優先順位付けを行い、メンバーを決定する。その後9月頃には部会を開催し、ヒアリング調査後の12月頃に再度部会を開催したい。更に来年もう一回ワーキンググループを開催したい。

◎意見等

- 話し合いだけで終わらないようにしたい。
- 今回のワーキンググループを実施することにどう意味があるのかは分からない部分があるが、実態調査の結果よりもひどい現状がある、というようなアピールをすることは可能である。